



▲町の中央を流れ、見たすかぎりの美田を開いた幸野溝



▲県下最古の建造物、重要文化財 城泉寺阿弥陀堂



▲町勢発展の期待を担う横谷トンネル

# 開発と福祉の 調和を目指して

## 位置沿革

湯前町は、熊本県の南部、球磨郡の東端に位置し、東は宮崎県児湯郡西米良村と接し、西南は多良木町、北は水上村と日本三急流球磨川で界し、東西八・五キロ、南北十キロ、総面積四十八・二三平方キロの町です。

本町は、鎌倉時代に相良藩の所領となり、明治維新までの六百七十年の長きにわたって相良藩制下にありました。明治維新後、幾度かの地方自治制度の改革を経て、昭和十二年四月、町制施行、現在に至っています。

## 交通

本町は人吉市より二十四キロ、国鉄湯前線の終着駅で、町内は国道二一九号線、県道五路線が主要路線として通じ、その間を町道六十八路線が縫っています。

## 土地・水利

本町の総面積の七七パーセントが山林で占められ、国有林四八パーセント、町有林一八パーセント、私有林一一パーセントとなっています。また主な河川は球磨川が北東より南西へ、その支流、都

川、大谷川、仁原川が東より西へ流れ、県営市房ダムより取水された幸野溝が中央を北東より南西へ貫通して多良木町、岡原村を経て錦町へ通じており、都川から取水された上溝、中溝が幸野溝に沿って北東より南西へ流れ、この三溝が水田の大半をかんがっています。

## 農業

農家戸数七百六十七戸、このうち専業農家が百七十七戸、第一種兼業三百三十一戸、第二種兼業二百五十九戸で、耕作面積は水田が五百四十一ヘクタール、普通畑七十七・九ヘクタール、樹園地三十七ヘクタール、混雑林地五・三ヘクタール、計六百六十一・二ヘクタールで二戸当たりの耕作面積は〇・八六ヘクタールとなっています。

主な換金作物及び面積は水稲五百四十一ヘクタール、たばこ二百二十九ヘクタール、ぶどう二十二ヘクタール、桑園一・五ヘクタール、イ草八・三ヘクタール、その他野菜、穀類です。また米に次いで所得の大きいものは畜産で、乳牛二百五十八頭（うち成牛百八十六頭）、繁殖牛及び肥育牛九百五頭、豚千七百四十

## 三頭となっています。

## 林業

本町々有林の一般地勢は市房山（一二二メートル）より牧良山、白髪岳（一四一七メートル）に連なる九州山脈の中腹以下の山麓を占め、民有林千三百九十九ヘクタールのうち町有林が六四パーセント、九百三・九ヘクタールがあり、また宮崎県西米良にも町公有林四十五・八ヘクタールがあります。

## 商工業

本町の商工業は小規模経営の零細企業が多く、工業面では製材業を主として焼酎製造等があり、誘致工場として東京軽電気があります。商業は、その置かれてある立地性と国道二一九号線の改修整備により、大口需要は人吉市等に移行しつつあり、食糧品、日用雑貨を中心とした生活必需品の供給程度といえます。

昭和六十年代に向けて経済、町民生活の活性化を促すような新しい三つの条件  
(一) 横谷トンネルの開通  
(二) 国道二一九号線のバイパス路線  
(三) 温泉源開発  
をいかに具体的に生かすかが今後の町発展のポイントといえます。

## 文化財

城泉寺、本町の南西に位置する城泉寺阿弥陀堂は約七百年前、鎌倉初期の貞応年間（一二二二年～一二二四年）に沙弥浄心の造立になるものと伝えられ、県下最古の建造物です。昭和三十四年に復元

され、創建当時の清楚にして優美な姿を再現しています。堂内にはおなじ鎌倉初期の作である阿弥陀三尊が安置され、庭前には九重、七重の塔が立っています。いずれも国宝で昭和二十五年の文化財保護法制定により重要文化財に指定されています。

・弘法大師坐像（県指定 昭四〇・二・二五）  
・本尊の身高百六十センチ、頭内に応永七年（五百七十年前）の銘があり、永録九年に補修されています。

・十一面観音立像（町指定 昭四五・八・一一）  
・室町時代の作品で本尊の高さ百七十九センチ、肩幅四十八センチ、腰幅四十七センチ。  
・全身に胡粉を塗り、左手に水瓶を持ち右手を垂れ、靈文を配した金泊の拳身光背を負っています。

・大師堂（町指定 昭四五・八・一一）  
・堂は三間四面の茅葺きで江戸時代の建造物です。中央須弥壇上には宮殿風の建築を模した厨子が組み立てられ、本尊はその中に安置されています。  
・八聖寺本堂（町指定 昭四五・八・一一）  
・本堂は三間四面で、元は茅葺きであったが瓦葺きに改造された。本堂は城泉寺を造った弟子の手によってつくられたとの伝えもあります。